

第8回「食品・日用品に関する容器包装研究会」のご案内

【テーマ】「海外大学でのパッケージング研究と日本の包装学部設立構想」 ～～日本に包装学部・包装学研究科設立に向けて～～

【ご案内】

包装学会誌やダイレクトメールで情報発信しております通り、業界を挙げて日本の大学に「包装学部・包装学研究科」を設立すべく活動を開始しております。今回の研究会では、包装関係の海外留学体験をされた方をお招きし、日本と海外の大学の違いを学び、日本に包装学部・包装学研究科が設立された場合の未来や可能性について皆様と一緒に考えてまいりたいと存じます。概要につきましては、添付のPR資料をご覧ください。包装業界の未来を創造するため、皆様のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。多くの皆様のご参加を心よりお待ちしております。

【当日の内容】※多少変更する場合があります

1. オープニング & 趣旨説明 : 高山(2分)
会合の目的(海外事例の共有と設立運動への賛同をしていただきたい旨)
2. ミシガン州立大学 School of Packaging のカリキュラムと留学を通じた学び: 林様(15分) + 質疑応答(5分)
 - ・ミシガン州立大学の簡単な紹介(どのような大学か)
 - ・School of Packaging の簡単な紹介
 - ・カリキュラムの紹介、どのような選択コースがあるのか
 - ・日本で、包装学部を作るとしたら、MSU のどのような良い点を取り入れたらよいか
 - ・林様が留学しての全体的な感想
3. ラトガーズ大学での学生生活: 大日方様(15分) + 質疑応答(5分)
 - ・ラトガーズ大学の簡単な紹介
 - ・大日方様が入学した大学院の研究室ではどのような研究がされているか
(ご自身の研究室の研究テーマ、他研究室の研究テーマ)
 - ・大学と企業を結ぶ活動
大学と企業との交流の紹介(IFT参加⇒採用)
 - ・日本の大学と米国の大学との違い
学生生活、カリキュラム、学習環境、研究の進め方等
4. TOKYOPACK での PR 活動紹介 & アンケートのお願い: 高山(3分)
 - ・TOKYOPACK での展示内容、企画の説明
 - ・包装学会誌第 35 巻第 4 号「世界の大学で包装はどのように学ばれているのか— 包装学科・包装研究科の海外教育・研究調査 —」の紹介 著: 丹生啓佑様
 - ・会場でのアンケート記入のお願い
5. 日本の大学に「包装学部・包装学研究科」設立の想い: 永井先生または宮田先生(15分)
 - ・日本の大学への包装学科・包装学専攻の新設を推進するための委員会の説明
 - ・設立に向けての想い
6. 全体を通しての質疑応答(残り時間があれば)

【開催日時】2026 年9月 4 日(金) 13:00～1時間10分 参加費:無料

Google Meet にて開催(後日参加者へメールにて接続用 URL をご連絡します)

【申し込み方法】

以下のフォームに入力してください。

リンクできない場合は直接高山(takashi.takayama@kewpie.co.jp)までご連絡ください。

<https://forms.gle/87UbTxYGart11fum9>

8 月 28 日まで申し込みをお願いします

2026年8月7日 研究会発足メンバー

(幹事) 高山崇 キューピー株式会社

(副幹事) 丹生啓佑 公益財団法人日本生産性本部

秋田直也 神戸大学

和手憲幸 キューピー株式会社

川崎翔太 花王株式会社

日本の大学に 「包装学部・包装学研究科」を



7兆円産業の未来を支える、専門人材育成のために
包装学（学士・修士・博士）の誕生へ向けて

国内包装産業の市場規模

7兆円

47都道府県すべてに雇用を生む
日本の重要な基盤産業

グローバル市場規模

100兆円

世界に挑む日本企業にとって高度な
専門教育を受けた人材が急務

なぜ今、包装教育が必要なのか



キャリア選択における 「包装産業」の認知不足

少子高齢化で人材難が予測される中、
高校生・大学生がキャリア設計時に
「包装産業」を具体的な進路として思
い描く機会が不足している。



海外の専門教育との協働

欧米・アジアでは専門教育が拡大、
専門学位取得者が業界をリード。日本
は大きく出遅れている。



高度学術キャリアパス （学位）の不在

「包装学」の学士・修士・博士の体系を
整え、研究と実務をつなぐ専門教育が
求められている。

3つの アクションプラン

ACTION
01

産業界の採用「ニーズ」の可視化

日本包装技術協会（JPI）と連携し、包装関連企業への採用・専門学位
ニーズ調査を実施。申請に必要な客観的根拠データを整備します。

ACTION
02

関係省庁・ステークホルダーへの働きかけ

文部科学省、経済産業省、農林水産省、環境省などへ働きかけ、教育・
産業・環境政策の各面から「包装学」の必要性を発信します。

ACTION
03

TOKYO PACK 2026 での機運醸成

TOKYO PACK 2026 を大きな発信機会とし、認知拡大キャンペーンと
アンケート実施を通じて 設立機運を高めます。

採用ニーズアンケートへのご協力をお願いいたします。
皆様の声が、包装学部の実現につながります。

年間 1,000～5,000 人規模の「包装の
プロフェッショナル」が輩出される未来へ。



日本包装学会

<https://www.spstj.jp/>

